

令和5年3月10日

デジタル田園都市国家構想推進交付金の採択内示について

未来政策課・交通政策課・情報政策課

本市民のマイナンバーカード申請率が70%を超えたことで申請することができた「マイナンバーカードをベースとした商業と交通の決済連携による地域活性化」事業について、デジタル田園都市国家構想推進交付金（マイナンバーカード利用横展開事例創出型、通称「タイプX」）の採択内示がありました。また、同交付金タイプ3「共助のまちづくり事業」及びタイプ1「公共施設予約システム導入事業」についても内示がありましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

- 1 マイナンバーカードをベースとした商業と交通の決済連携による地域活性化事業（交通政策課）

(単位 千円)

	事業費	補助率	交付内示額
<u>タイプX</u> マイナンバーカードをベースとした商業と交通の決済連携による地域活性化	300,000	10/10	300,000

- 2 共助のまちづくり事業（未来政策課）

	事業費	補助率	交付内示額※
<u>タイプ3</u> 共助のまちづくり事業	259,600	2/3	173,066

- 3 公共施設予約システム導入事業（情報政策課）

	事業費	補助率	交付内示額※
<u>タイプ1</u> 公共施設予約システムの導入	25,500	1/2	12,750

※2, 3ともに地方負担分は地方交付税の増額等で措置予定

- 4 事業の概要  
別紙のとおり

マイナンバーカードをベースとした商業と交通の決済連携による地域活性化事業  
(タイプX)

## 1 事業計画の概要

マイナンバーカードと交通系 IC カードの連携を実現した MaaS クラウドシステム基盤を活用することで、交通系 IC カード 1 枚で年齢情報や住所地等の属性情報の資格判定が可能となっている。本事業では、商業施設での公共交通を利用した来客へのポイント付与や割引適用、路線バス乗車時の交通系 IC カードワンタッチでの属性割引運賃適用等の機能強化を行い、移動手段である公共交通と目的地である商業施設での決済の相互活性を通じ、商業振興・まちの活性化を図るサービスを構築する。

## 2 事業内容

### (1) 商業分野におけるスマートフォンへの 1 タッチ認証・決済サービス

路線バス等の公共交通と合わせた利用とすることで、商業施設での会計時に、交通系 IC カードを店舗のスマートフォンにタッチするだけでパーソナルな認証（市民・年齢等）を実施のうえ、属性に応じた割引決済を可能するもの。

### (2) 路線バスにおける 1 タッチ認証サービス

クラウドサーバー上にて交通系 IC カードにマイナンバーカードを認証連携することにより路線バス乗車時に、交通系 IC カード 1 枚でパーソナルな認証を実施し、属性に応じた運賃割引（市民・高齢者等）を実施する。

## 3 事業スケジュール（予定）

令和 5 年 4 月	デジタル田園都市国家構想推進交付金交付決定
6 月	補正予算議案提出
7 月	事業開始
令和 6 年 3 月	事業完了

## 4 事業担当者

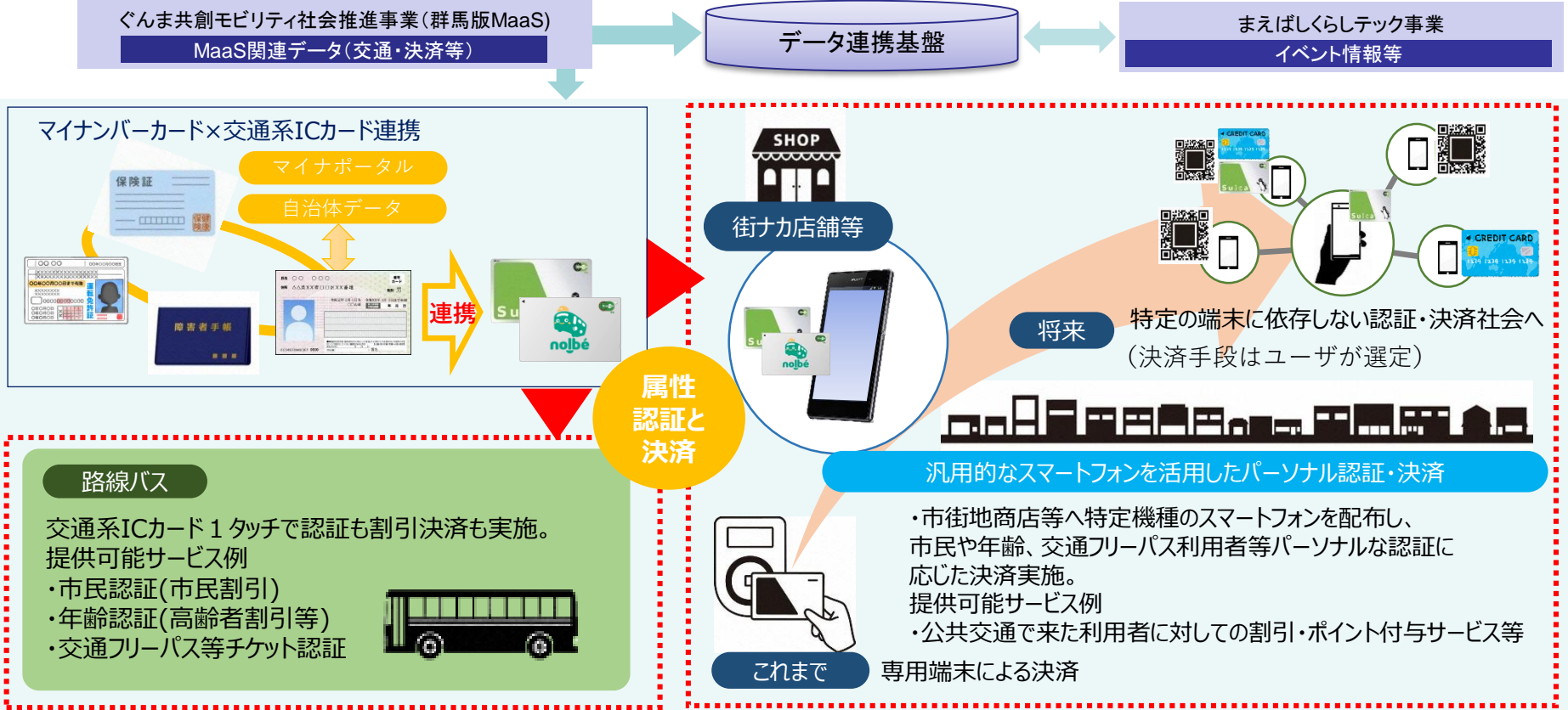
未来創造部交通政策課地域交通推進室 竹内室長、入澤主任  
電話 027(898)6238

# 事業概要【マイナンバーカードをベースとした商業と交通の決済連携による地域活性化】

実施地域	群馬県前橋市	事業費	300,000千円
実施主体	群馬県前橋市	人口	約33万人
事業概要	マイナンバーカードと交通系ICカードの連携により、年齢情報や住所地等の属性情報の資格判定を交通系ICカード1枚で実施し、共通のクラウドシステム基盤を活用することにより、公共交通を利用した来客へのポイント付与や商店での割引、路線バス乗車時の交通系ICカードをワンタッチでの属性割引運賃適用等、移動手段である公共交通と移動先での決済を相互活性させるサービスを構築する。		

## 取組内容

マイナンバーカードと紐付けた交通系ICカード認証/決済により、パーソナライズされた公共交通の運賃と一体での商業サービスを実現する



# サービス内容：商業分野におけるスマートフォンへの1タッチ認証・決済サービス

移動手段（公共交通）と一体による商業振興・まちの活性化を図る。

- ・交通系ICカードにマイナンバーカードを認証連携し、商業施設での会計時に、交通系ICカードをスマートフォンにタッチするだけでパーソナルな認証（市民・年齢等）を実施、属性に応じた割引決済。
- ・路線バス等の公共交通と合わせた利用とすることで、例えば会計時にバスフリーパス利用者に対して割引を適用、商店への移動手段に公共交通を利用した実績に対してポイントを付与。



個々のユーザの目的にマイナンバーカードと交通系ICカードの認証を連携させることで、マイナンバーカードの利活用と公共交通を利用した移動を促進させる

# サービス内容：路線バスにおける1タッチ認証サービス

バス利用における利用者属性に応じた割引などのサービス提供により利便性を向上させ、公共交通の利用促進に繋げる。

・交通系ICカードにマイナンバーカードを認証連携することにより路線バス乗車時に、交通系ICカード1枚でパーソナルな認証を実施し、属性に応じた運賃割引（市民・高齢者等）を実施する。

・事前に購入済みのフリーパス情報を交通系ICカードに紐づけることで、フリーパス等利用時の利用認証も同じ交通系ICカードにて実施。



## 共助のまちづくり事業（タイプ3）

### 1 事業計画の概要

令和4年度に構築した「めぶくID」「データ連携基盤」をベースに、いつでもどこでも安心なオプトイン（ダイナミックオプトイン）を活用して、さらなる共助のまちづくりを進めるもの。具体的には、多様な市民が自分の意見を示し、まちづくりを進める仕組み（めぶくファーム）と、障害者の外出をサポートし、助け合いの輪をさらに広げるシステム（めぶくEYE）を構築する。

### 2 事業内容

#### (1) めぶくファーム

リアル、デジタル双方で市民が参画して意見を提示・議論する仕組みを構築し、まちづくりに関する新たなコミュニティ形成につなげる。個人はマイナンバーカードを基点としためぶくIDを使って参加することで、本人性と匿名性を担保して、自分の意思・意見を行政や各種団体、サービス提供者などの地域社会へ伝えることができる。

事業実現により、多様な市民、団体など関係者が意見を出し合うことで、地域がより活性化し、まちづくりに関する取組や施策、サービスの改善なども含め、元気で楽しい前橋市のまちづくりに資するもの。

#### (2) めぶくEYE

視覚障害者の街歩きをサポートするAIナビゲーションと令和4年度に構築した共助プラットフォームを活用して、「助けたい人」と「助けを必要とする人」をつなぎ、「共助のまちづくり」の仕組みを構築するもの。こちらもめぶくIDを使って本人性と真正性を担保して、障害のある方も安心して利用できるサービスを目指す。（令和4年度夏のDigi田甲子園アイデア部門優勝）

### 3 事業スケジュール（予定）

令和5年4月	デジタル田園都市国家構想推進交付金交付決定
6月	補正予算議案提出
7月	事業開始（事業者公募⇒選定）
令和6年3月	事業完了

### 4 事業担当者

未来創造部未来政策課スマートシティ推進係 大矢係長、高橋主任  
電話 027（898）6527

# サービス概要 (1/2)

## ■ サービス内容

サービス名	めぶくファーム	事業費	82,800千円
ターゲット	前橋市民、前橋e-市民		
展開エリア	群馬県前橋市、その他		

### サービス内容 (事業分野：⑫その他)

**MNC活用新規性**

- まちづくりコミュニティを形成する上で、メンバー間相互の信頼が極めて重要。相互信頼があってこそ、本音で自由闊達な議論や取組が可能となる。したがって、MNCをトラスターアンカーとしためぶくIDにより、その特徴でもあるダイナミックオプトイン機能を合わせて、いつでもどこでも実名としての本人性、匿名としての本人性等を担保することにより、デジタルで安心した議論や意思表示が可能になり、住民請求等の新規性のある仕組みづくりを含む議論の推進・コミュニティ形成を行え、MNCの新規性の活用に該当する

**現状のギャップ**

【前橋市・地域住民】

- 市民の本質的な声を幅広く拾うには時間と労力を要する
- まちづくりに関して市民を巻き込む機会が限られている
- 市民がまちづくりに参画するスキームが限定されている
- 世の中の知識や知恵を政策に取り入れる手法が限られている

**R5実装**

【コンセプト】  
リアル×デジタルで討議やいつでもどこでも安全に自分の意思をダイナミックに反映できる場を作ることで、まちづくりに関する新たなコミュニティ形成の自己形成と展開を促す。参加者はデータに基づいたまちの課題に対して自ら解決していく仲間を集い実現していく。老若男女がいつでもどこでも声を上げることができよう環境を実現する

【プラットフォーム】

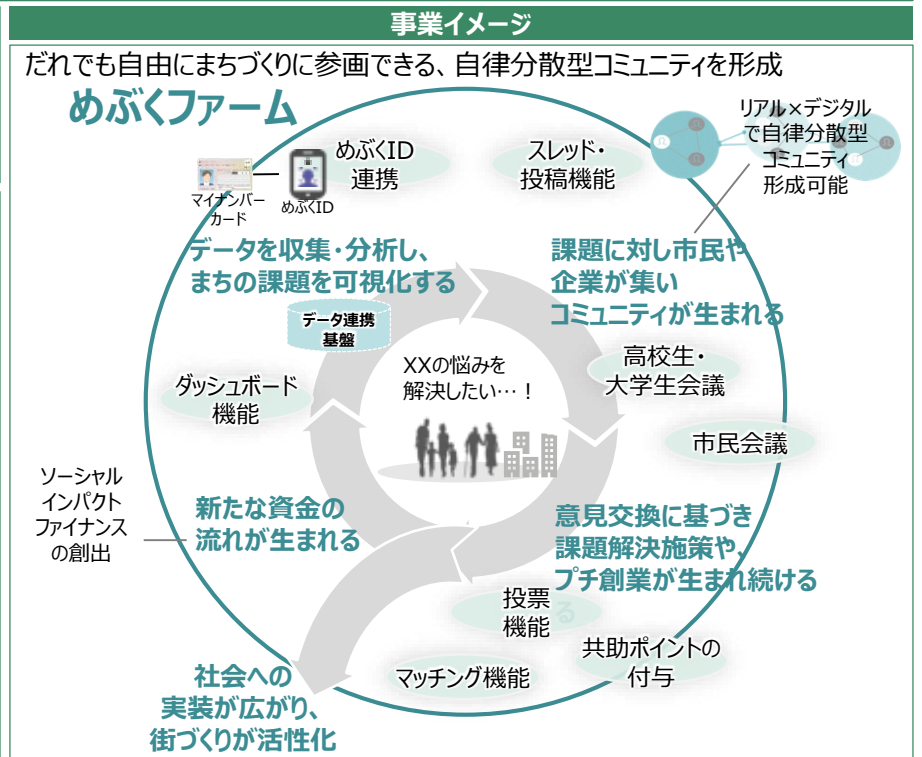
- めぶくIDと連携し、匿名で参加できるPFを構築する(本人性・真正性を担保)
- スレッド機能を活用し、自由闊達な議論の場を提供する
- 投票機能を構築し、リアルタイムで市民の意見を拾う
- 共助ポイント(JOIN)の付与で取組を促進、可視化する

【会議・分析・コミュニティ・プチ創業】(生まれる効果)

- リアルな場所の活用とめぶくID連携都市と連携し、リアルな会議を1回以上、オンラインでの議論を5スレッド以上建て、若者から高齢者までを巻き込んで地域課題解決や社会アジェンダへの対策を議論する。
- GIA/GPA等と連携し、新たなサービスアイデアの創発や資金集めを容易にしてスタートアップエコノミーを自律分散的に作る

【想定アジェンダ (案)】

- まちづくりに感じる課題、実現すべきこと
- (中高生に対して)自分の地域が住みやすくなるための意見交換
- (大学生やスタートアップ)まちづくりの課題に対してできる解決策
- めぶくEYEと連携し共助者を集う会



**実現したい将来像**

- 自らが当事者となり発言すること、それらが政策の意思決定に反映される将来像を目指し、コミュニティが将来的な住民請求等につながり、投票率の増加なども目指す



# サービス概要 (2/2)

## ■ サービス内容

\*1: 英国慈善団体「World Giving Index 2022」における調査報告書より

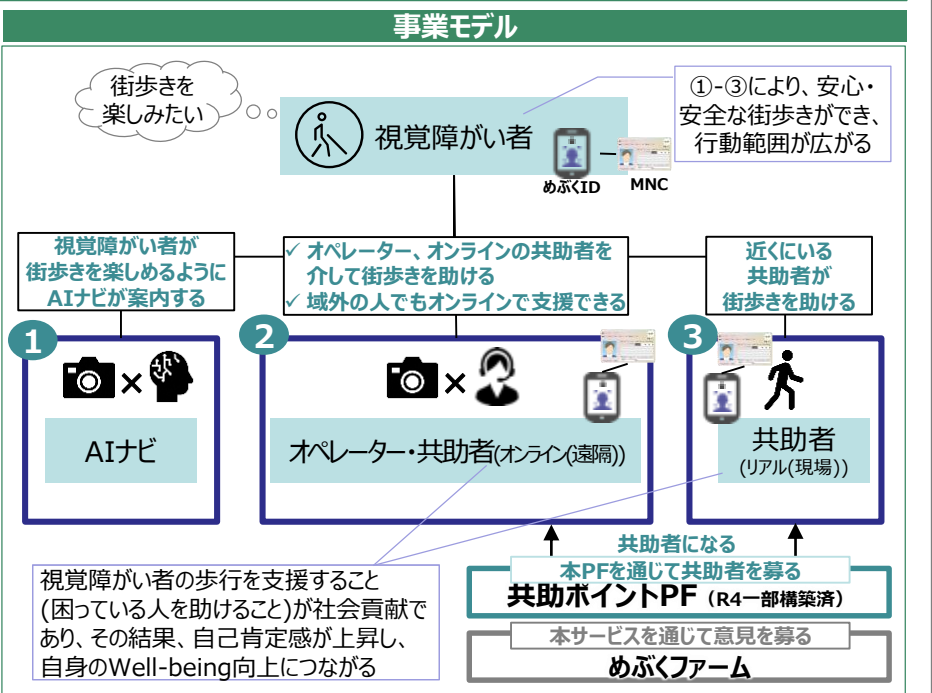
サービス名	めぶくEYE (自助共助型障がい者サポート)	事業費	118,800千円
ターゲット	前橋市内の視覚障がい者、前橋e-市民		
展開エリア	群馬県前橋市 他		

### サービス内容 (事業分野: ⑤医療・福祉・子育て)

MNC 活用 新規性	<ul style="list-style-type: none"> <li>めぶくEYEは、視覚障がい者の歩行をAIのみならずオペレーターや共助者によるサポートを得ることで実現するが、その時、お互いの信頼が絶対的な条件となる。したがって、MNCをトラストアンカーとしためぶくIDにより、オペレーターや共助者の信頼を、実績データ等を基に共助ポイントPF上で示した上で、視覚障がい者/家族がダイナミックオプトイン(この場合は音声によるオプトイン)することでサービス提供が可能であり、いつでもどこでも誰でも安心な共助の世界を実現することがMNCの新規活用性に該当する</li> </ul>
------------------	--

現状の ギャップ	<p><b>【視覚障がい者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>盲導犬や白杖等を使うことで、歩行・移動は可能であるが、支援には限りがあり、「散歩・街歩き」にはなりづらい</li> </ul> <p><b>【支援をする人】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本は、世界人助け指数が118位(ワースト2位) *1であり、人助け文化が浸透していないことは全国の自治体の共通課題である</li> </ul> <p><b>【データ利活用】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去の事故・リスク経験等、歩行時の情報利活用が不足</li> </ul>
-------------	---

R5 実装	<p><b>【概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>視覚障がい者が自ら簡単に支援を受けられる自助の仕組みと、支援を受けたい人(視覚障がい者)と支援をしたい人(共助者)をマッチングする共助の仕組み(共助PF)をデジタルID(めぶくID)でつなぎ、視覚障がい者支援の仕組みを構築する。また、構築する視覚障がい者や共助者の蓄積された経験値データ蓄積を利活用する</li> </ul> <p><b>【具体策】</b></p> <p>① <u>スマホを通じたAIナビゲーション (自助、デジタル)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身に着けたスマホカメラの視界をクラウド上のAI技術で画像認識し、障がい物等の情報をスマホから音声で伝えることで、「景色が聴こえる」歩行を実現する歩行ナビゲーションシステムを実装する</li> </ul> <p>② <u>スマホを通じた遠隔ナビゲーション (共助、デジタル)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>視覚障がい者が身に着けたスマホカメラを通じてオペレーターが状況を伝えることで歩行を支援する</li> <li>視覚障がい者⇄オペレーター・共助者(遠隔)で繋がるシステムを構築し、歩行を支援する</li> </ul> <p>③ <u>近くの共助者によるサポート (共助、デジタル×リアル)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>共助ポイントプラットフォーム (R4一部構築済) を介し、視覚障がい者と共助者がマッチングした後、位置情報を基に共助者が視覚障がい者のものとへ駆けつけてサポートする</li> </ul>
----------	---



※本事業での実装範囲は前橋駅から商店街等までとし、将来的には対象範囲を拡大していく予定

実現 したい 将来像	<ul style="list-style-type: none"> <li>自助と共助の相乗効果による支援により「視覚障がい者でも安心して歩ける街」を実現するサービスを介し、住民の「人助け」を促進し、助け合っ心や地元愛を育み、「暮らしやすい街」を実現する</li> <li>危険箇所等のデータを蓄積して安全なまちづくりの一助とする</li> </ul>
------------------	---



## 公共施設予約システム導入事業（タイプ1）

### 1 事業計画の概要

公共施設予約システムの導入（①WEB予約、②キャッシュレス化）により、現在、来庁して行っている施設予約や、空き状況確認、支払い手続き等をスマートフォン上で完結でき、市民がいつでもどこでも簡単に施設利用ができる仕組みを実装する。また、施設管理の観点から業務の効率化や運営コストの削減を図る。

### 2 事業内容

施設利用者がスマートフォンやインターネットを経由して、場所や時間に囚われずに公共施設の予約・決済が可能となるシステムを導入する。

これまで必須だった窓口の職員とのやりとりを介さずに予約が可能となるため、申請や支払いの度に訪問する必要がなくなり、公共施設への移動の時間・書類の書き込み等に係る時間が大幅に削減され市民サービスの向上に繋がる。また、書類の提出や現金の取り扱いがなくなることで、内部事務のペーパーレス化の促進等に寄与するもの。

※市内全域からの利用が見込まれる中央公民館で試験導入を行ったうえで、各地域の公民館や他の公共施設に順次展開予定

#### 【先行導入施設】

中央公民館

#### 【横展開】（順次、導入）

各地区公民館、総合福祉会館、前橋市芸術文化れんが蔵 他

※将来的には、他の公共施設へも導入拡充を検討

### 3 事業スケジュール（予定）

令和5年4月 デジタル田園都市国家構想推進交付金交付決定

4月 事業開始（事業者公募⇒選定）

令和6年3月 事業完了

※本事業については、令和5年度前橋市一般会計予算（未来投資DX枠）として議案提出済

### 4 事業担当者

未来創造部情報政策課DX推進係 中嶋補佐、小林主任

電話 027（898）5880

# 事業概要 【公共施設予約システムの導入】

実施地域	群馬県前橋市	事業費	25,500千円
実施主体	群馬県前橋市	人口	331,910人 (令和4年12月1日時点)

**事業概要**  
 公共施設予約システムの導入（①WEB予約、②キャッシュレス化）により、現在来庁して行っている施設予約や、空き状況確認、支払い手続き等をスマホ上で完結でき、市民がいつでもどこでも簡単に施設利用ができる仕組みを実装する。また、施設管理の観点から業務の効率化や運営コストの削減を図る。

**具体サービス**

公共施設予約システム

- ・WEBからの公共施設の予約
- ・利用料等の支払いをキャッシュレス決済の導入

市内全域からの利用が見込まれる中央公民館で試験導入を行ったうえで、各地域の公民館や他の公共施設に順次展開し、システム導入施設を拡充していく（令和5年度のシステム導入により、将来的にシステムを導入する公共施設も包括することができ、市域の予約システム利用の土壌が形成される）

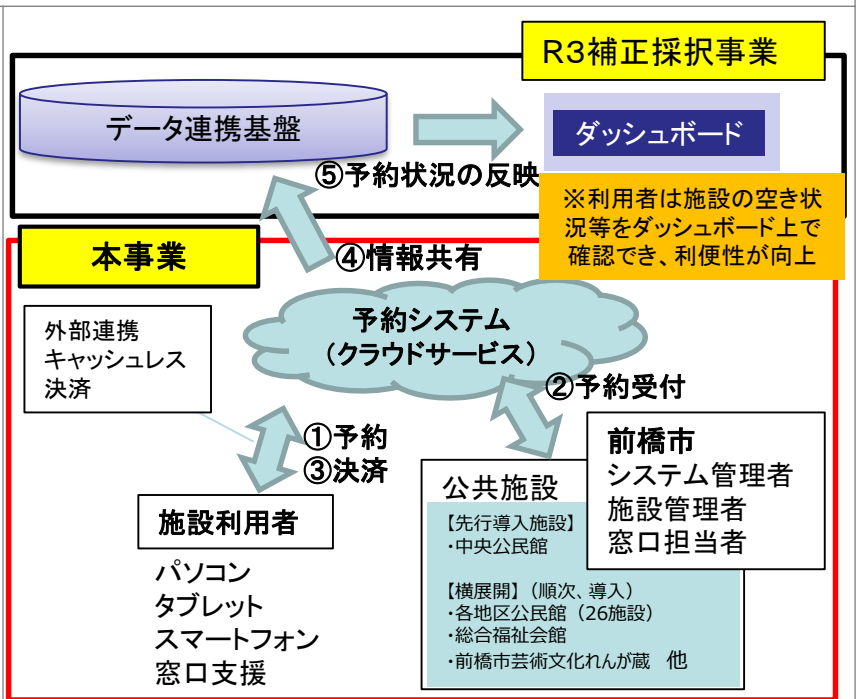
【先行導入施設】

- ・中央公民館

【横展開】（順次、導入）

- ・各地区公民館（26施設）
- ・総合福祉会館
- ・前橋市芸術文化れんが蔵 他

※将来的には、他の公共施設へも導入拡充を検討



**主なKPI**

【アウトプット指標（活動指標）】

- ①施設利用料におけるキャッシュレス決済の割合
- ②予約システム導入施設数

**【アウトカム指標（成果指標）】**

- ①予約システムの利用率
- ②予約システム利用者の満足度